

町田市議会議員・納税者主権

吉田つとむ

良識ある保守主義を目指す

町田市議会

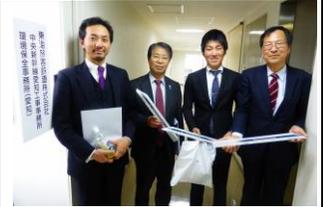
〒194-8520

東京都町田市

森野2-2-22

☎042-724-2171

保守連合会派室



会派所属議員で視察

保育園の待機児ゼロは可能か

国も地方も待機児童ゼロを、その政策スローガンの主要項目に入れています。議員も、皆さんから「保育園に入れない」という声を聴きます。他方で、施設に供給過剰が生じているという関係者の声もあります。むしろ、最大の問題は、都市部では低収入が原因で保育士不足が発生するという現実です。

町田市での実際の施設の需給でいうと、保育園は確実に増えているが、その後需要が増加したことで待機児童が減少しないという事態が続いています。要は、ゼロ歳児～1歳児クラスの保育をどのようなあり方で対処すべきかと言う問題でしょう。現実にはそれ以降の幼児は施設において決して不足とさええず、ましてや教育的な施設として多数の幼稚園も存在しています。

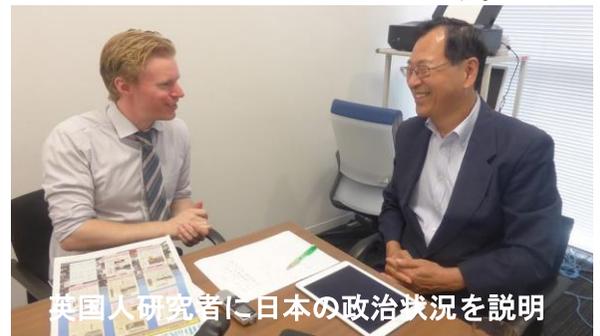
国が子育て世代の就労の拡大を求め続けることに無理があり、むしろ、所得補償で子育てを考える方がより良くなるとする見方が地方議会では芽生えています。私は多数が保育施設に預ける時代に、公設認可の施設が低料金で高いサービスを提供し、逆に、認証・無認可の施設が高料金でサービスが低い内容を提供する事態の改善こそが課題だと思っています。



高い人気を持つ民間保育園を見学訪問

高齢者の就労機会状況

今期の補正予算で、「アクティブシニア介護人材バンク事業」という制度の新設事業（予算額1千万円）がありました。東京都が全額を支出する（3年間）制度ですが、50歳代以上（上限は無い）の人が一定の講習を受け、登録をした上で、介護の現場で新たに働くことで慢性的な就労者不足を補おうという仕組みです。東京都は、期間を過ぎると予算を無くす可能性もあり、事後その任を基礎自治体（町田市）が負わされる懸念もありますが、今日的な課題であることは間違いないでしょう。人が60歳代を越しても就労する状況は当たり前になってきており、このことは、ある意味、以前には3Kと呼ばれた職務に高齢者が多数就業し、雇用者不足を補うことを下支えする事態が生じているとの構造ができてきたことを示しています。



英国人研究者に日本の政治状況を説明

この制度の趣旨は高齢者が元気な体を保ち、長く就労する体制の一端の保証をしようというものです。今後、この考えや取り組みが他にも増大すれば、少数の若者が多数の高齢者の生活を支えるという少子高齢化時代の若者の不安を取り除き、高齢者が就労による収入が長期間見込まれるという時代を迎える予感がしてきました。

★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> ユーチューブ <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集者 〒194-0011 町田市成瀬が丘1-14-12 サンホワイトE103-13 吉田つとむ（自宅）

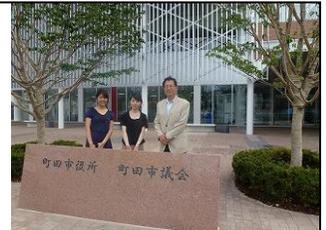
町田市議会議員 議会報告

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード
でブログ閲覧



市議会の見学・傍聴

研修レポート⑤御子柴 綾乃

今回は町田市民病院に伺い、栄養科で「科」の仕事や病院の食事についてお話していただきました。町田市民病院の栄養科では主に患者様の栄養管理を行っています。又、食育にも力を入れており、作成したポスターの掲示や病院の季刊誌にレシピの掲載を行っています。患者様への栄養指導も行っており、特に糖尿病や循環器系の入院患者様には必ず減塩の指導を行うそうで、栄養指導が盛んな印象を受けました。



共立女子大学3年生 御子柴 綾乃 (第38期)

又、印象的だったのが嚥下機能についてのお話です。嚥下とは物や水を飲み込む事で、加齢によって嚥下機能が低下してくると食べ物や飲み物が気管や肺に入ってしまう事があります。これを誤嚥と言い、肺炎の原因になる事もあります。これは管理栄養士を目指していれば習う事なので、私はある意味当たり前の事と考えていました。(中略)

今回も、勉強しているだけではわからない事をたくさん教えていただきました。特に、管理栄養士は食を通じて「人と関わる」職であるという事を強く感じました。学んだ事を胸に刻み、今後も学びを深めたいと思います。

研修記録⑤武者小路麻理



職員にも挨拶

昭和女子大学3年 武者小路麻理 (第38期)

横浜市会議員の山下正人さん(青葉区選出)が、町田市にお越しくださいました。町田市環境資源部の方々も交え、家庭ごみ等の費用負担のあり方について話し合いました。ごみの有料化が実施された当時のことを中心に、発生した問題やこれからの課題などの詳細な質疑応答が行われました。町田市の中でも限定的に始まっているプラスチックごみの分別収集の話が出た時は、その対象となっている地域に自分も住んでいるので拝聴に熱が入りました。

ごみの有料化によって町田市の総ごみ量は減少の一途をたどっていますが、ごみに関する問題は解決されていません。その一つが分別の不徹底です。ごみの減量化・リサイクルを目指した有料化ですが、可燃ごみへの紙ごみの混入が目立つそうです。これは、市民である自分の目線から見ると、そうした混入への指導が不十分であることや、そもそも市民がごみの減量に対して強く意識しているとは言い難い現状が原因なのではないかと感じました。ごみ問題に関しては、地域同士で連帯するべきだという意見も聞きましたが、過剰包装が指摘されていることから、優先順位を下げ市町村任せにするのではなく、国が積極的に働きかけるべきだと思います

掲載記事、市政のご関心事は、下記の FAX かもしくはメールまでご送信先ください。

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

Mail: yoshidaben@gmail.com mobile 専用: yoshidaben@docomo.ne.jp (携帯のみ接続)